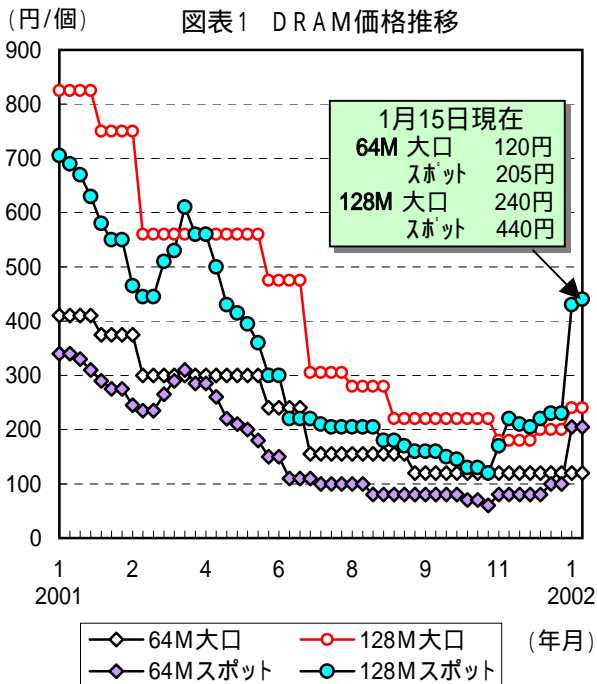
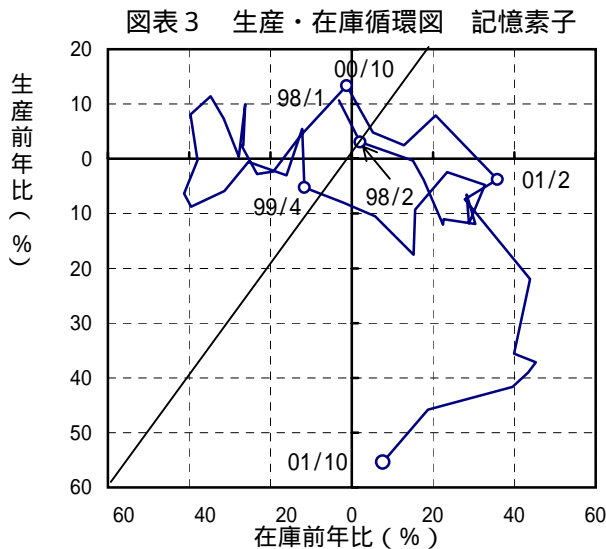


## 半導体DRAMスポット価格が反転

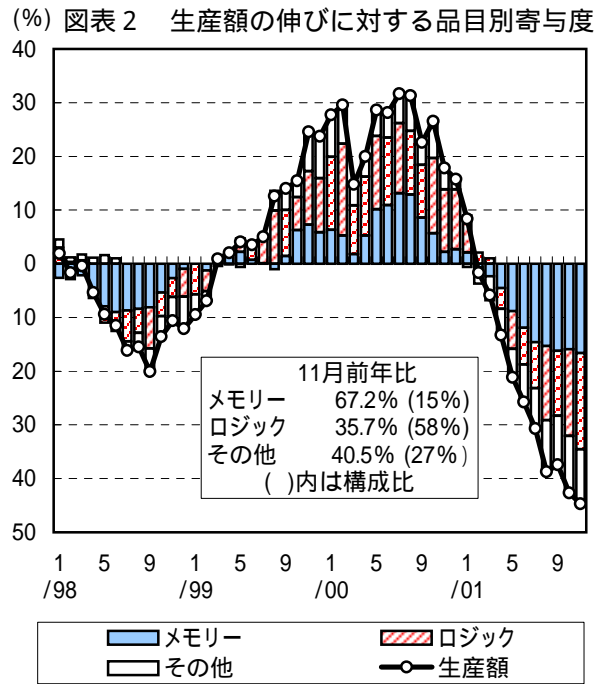
- ・DRAMスポット価格は2000年秋口より2001年11月まで一貫して下落傾向にあった。供給能力の過剰と主要需要先であるパソコンの需要低迷により需給バランスが大きく崩れたことが大きな要因である。
- ・2001年より供給DRAMメーカーの減産が進展、これに加えて、年末にかけ需要側のパソコンメーカーの在庫調整も進展したとみられ、需給バランスが回復しつつある。これにより2002年1月に入りDRAMスポット価格は最低価格(2001年11月時点)の3倍程度へと大幅に上昇している。
- ・なお、2001年10月時点の国内における集積回路生産・在庫状況をみると、記憶素子は未だ在庫が増加しているが、論理素子の在庫調整は先行して進みつつある。
- ・厳しい状況が続く半導体業界にあって、DRAM価格の反転は回復の兆しを示す指標と捉えられる。



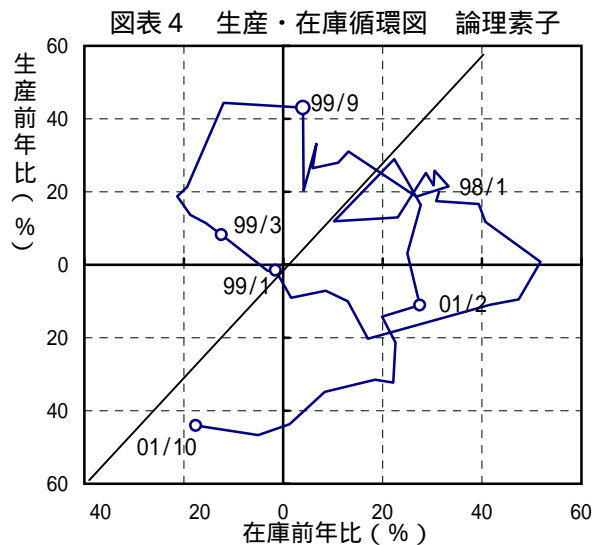
(備考) 日本経済新聞により作成。



(備考) 電子情報技術産業協会資料により作成。



(備考) 電子情報技術産業協会資料により作成。



(備考) 電子情報技術産業協会資料により作成。

[調査部(産業調査担当) 菅 四郎]